

ゲノム編集トマトを受け取らないで!

本誌編集委員 大久保裕子



全国の自治体に要望書を届けよう

『土と健康』2022年5・6月号に、「北海道食といのちの会」会長の久田徳二さんに、「ゲノム編集トマトは受け取らない!」というタイトルで原稿を書いていただきました。今年度から福祉施設へ、来年度からは小学校へゲノム編集トマト苗が無償配布される計画があり、久田さんの会では、道内179市町村の首長と教育長にアンケートを実施し、ゲノム編集トマト苗を「受け取らない」とした自治体は39、「受け取る」とした自治体はゼロであった、という内容でした。(次頁の要望書と回答書を参照)

この久田さんたちの取り組みが全国に広がっています。OKシードプロジェクトでは全国各地の動きを集計し、インターネット上で発信しており、ゲノム編集トマト苗を受け取らないと明言した自治体数は152に上っています(10月19日時点)。この取り組みを全国化するための全国交流会が10月19日にオンライン会議で開かれました。

全国交流会では、まず「遺伝子組み換え食品いらない!キャンペーン」代表の天笠啓祐さんから、米国でゲノム編集高オレイン酸大豆を販売・流通していたカリクスト社が経営破綻したことから、ゲノム編集作物の栽培をしているのは世界で日本だけというお話がありました。その作物

が、今回問題になっているゲノム編集高GABAトマトです。高GABAが健康に良いという根拠はなく、健康に悪いということが否定できないとの研究結果も発表されているそうです。

トマトは自家受粉植物ですが、花粉の寿命が3〜4日と長いので、他家受粉も十分起こりうるのです。他のトマトとの交雑の心配があるのとこと。ゲノム編集技術の問題点についても、わかりやすく説明していただきました。

「北海道食といのちの会」事務局長の山崎栄子さんからは、北海道での活動内容を詳しくご紹介いただきました。回答がなかった自治体へは、会員の中からボランティアを募って「電話作戦」を行ったそうです。反省点は、要望書に首長と教育長を連記したこと。個別に渡すほうが良いとのことでした。

徳島県の「食と農を守る会 徳島」からは、自然農で自給自足に近いかたちで伝統野菜や在来種を栽培されている柴田憲徳さんがお話されました。柴田さんたちは、24市町村24教育委員会、計48か所を3日間かけて直接訪問し、首長などに会うことができなかつた場合、担当部署へ資料(『ゲノム編集—神話と現実』のコピー)を渡して、時間の許す限り説明したそうです。その結果、受け取らないと回答した自治体が18、受け取るのはゼロでした。

色がついているのは、ゲノム編集トマトを受け取らない自治体が1つ以上ある都道府県。2022年10月19日現在

地図情報はOKシードプロジェクトのウェブサイトです



香川県、宮城県、長野県からの報告もあり、住民が自治体に直接、要請書を渡すことが効果的ということ、議員さんにはたらきかけてもらうと良い結果が出やすいということがわかりました。また、要請書に団体名や個人名を連ねたことも効果的だったとのこと。郵送したが回答がないので電話をすると、まだ見えていないという場合もあり、そもそも役場の担当者かゲノム編集のことを知らないことが多く、まず説明が必要だったそうです。

OKシードプロジェクトのウェブサイトに掲載されている全国地図(右図)には、1自治体でも受け取り拒否が出た都道府県には色が塗られています。色が塗られていない地域は、まだこの取り組みが行われていないか、報告がされていないということです。

今後も、受け取らない自治体が出れば色が塗られていきます。活動された方はぜひ、OKシードプロジェクト (mail:tomato@okseed.jp) に連絡してください。私も、個人的に活動した内容を報告して、マップに色を塗っていただきました(32頁の編集後記参照)。

来年の3月末までに、全国に色が塗られることを願っています。

「ゲノム編集トマト苗配布問題全国交流会」がYouTube動画で配信中です！
【資料】 <https://okseed.jp/tomato1019report.html> から見ることができます。
【参考URL】 OKシードプロジェクト <https://okseed.jp/genometomato.html>
「ゲノム編集トマト苗の福祉施設・小学校への配布問題について」

< 回答書 >

恐れ入りますが、貴自治体の対応をお聞かせいただければ幸いです。私たちの要望の趣旨をご理解いただき、ゲノム編集生物の種苗等を、開発・販売企業等から受け取らないでいただけますでしょうか。

自治体名
ご担当部署・ご担当者
同連絡先

- 受け取らない
- 受け取る
- その他

(いずれの場合も、その選択の理由やコメントをお聞かせ下さいますか)

回答期限：2021年12月31日

回答書はファックスまたはメールで事務局までお送りくださいますか。

FAX ●●●●-●●●●-●●●●

2021年12月1日

札幌市長 秋元克広様

北海道食といのちの会

貴自治体の福祉施設や教育施設において、 ゲノム編集トマトの種苗を受け取らないでください

パイオニアエコサイエンス社は、ゲノム編集トマト「シシリアンルージュ ハイギャバ」の種苗を、福祉施設や教育施設へ無償配布する計画を発表しました。福祉施設への配布は2022年、教育施設は2023年に開始するとのことです。

ゲノム編集技術は、特定の標的遺伝子を破壊して行う生命の改造です。標的以外の様々な遺伝子を破壊してしまう「オフターゲット」現象がしばしば起きます。無差別な遺伝子の破壊により、新たな毒性やアレルゲン、がん誘発物質の発生が危惧されます。遺伝子は生命活動の基本であり、全体が関連しており、壊してよい遺伝子などありません。

また、ゲノム編集が行われたことを確認するための抗生物質耐性遺伝子も含まれているため、抗生物質耐性菌が増える危険があります。遺伝子組み換え食品と同等もしくは、それ以上の危険性を指摘する研究者もいます。

ゲノム編集技術の開放系（実験室外）への放出と食品応用には本来、厳格な検査と規制が必要です。にもかかわらず日本政府は、環境影響評価や食品としての安全性審査、表示も義務づけていません。一方で、特許は認められるので、遺伝子組み換えと同様に種苗等を独占する企業に莫大な利益をもたらします。一般圃場で栽培すれば、花粉などの飛散が起こり、農家の栽培種と交雑するなど、環境への深刻な影響も心配されています。トマト農家などへの風評被害も懸念されます。

ゲノム編集トマト「シシリアンルージュ ハイギャバ」に関しても、環境への影響を評価する試験や、食品としての安全性を確認する試験が行われていません。自然や生物の健康へ影響を与えてしまうことを強く懸念する消費者団体、農民団体、食の安心安全を求めるNGOは、同トマトをはじめゲノム編集された生物放出と食品の栽培、流通に強く反対しています。

安全性が確認されていない食品を子どもたちに食べさせることは許されません。安全性に強い疑問のあるゲノム編集トマト「シシリアンルージュ ハイギャバ」の種苗を貴自治体内の福祉施設や教育施設が受け取らないことを強く要望いたします。